



未来に挑戦する子ども達へ

学びの場「ワーケーション」



リラックスした開放的な環境で、会議や打ち合わせ、時には1人で仕事や勉強ができる「Coworkation Village MAIZURU (CVM)」。働き方に縛られず、自由な場所で非日常を感じることができます。ここは、市内の子ども達に舞鶴の魅力を発信する場でもあり、大学進学などで舞鶴から離れても、Uターンして就労する場所があることを感じられる学びの場、発信の拠点でもあります。

学びの場・発信拠点を活用した「若者チャレンジ」

SDGs 未来都市推進本部では、CVMを活用した取り組みとして、市内小学生を対象に市内企業の協力のもと、企業紹介や仕事内容などの疑問に答える事業「若者チャレンジ」に取り組んでいます。身近にあるテーマを実験の題材として、仕事をすることで、関心を高めています。さらにフィールドワークなどを実施することで、視覚・触覚など五感を養っています。この活動を通して、未来を担う子ども達に地域の仕事を考える機会をつくり出し、好奇心・興味・関心を引き出していく活動を続けていきます。

今年度の活動

◆薬剤師の仕事教えます！

小学4～6年生を対象に、応募者55人の中から抽選で14人が参加。ゆう薬局の薬剤師を講師に迎え、薬剤師の仕事についての体験型イベントを実施しました。薬の調査実験では、人それぞれに合った薬の量があることや、副作用を避けるための正しい使用方法を学びました。

◆おさかな観察会

小学4～6年生を対象に令和2年度から実施。京都大舞鶴水産実験所の益田玲爾教授を講師に招き、舞鶴湾に生息している魚の実態や海の生物の研究記録を説明してもらいました。参加者は事前に調べてきた生き物の観察記録を順に発表したほか、フィールドワークでは、長浜地区にある水産実験所で飼育している海産生物や舞鶴湾の生物を観察しました。

◆舞鶴高専杯プログラミングコンテスト

令和2年度から小学校でプログラミング教育が必修となり、その技術の習得の重要性が増しています。市では舞鶴高専と連携し、プログラミングの技術力や表現力、発想力の向上を目指して、令和3年度からプログラミングコンテストを開催しています。



若者チャレンジ

正しい薬の知識を得るための学習



水産実験所で飼育している魚を観察



益田教授の生物観察記録の説明に耳を傾ける参加者



「若者チャレンジ」で、子ども達の感性・創造性を養い、地元舞鶴の良さをアピール

〈お仕事体験イベント参加者の声〉

中舞鶴小学校
6年



水本 優海さん

薬剤師さんのお仕事体験のことはチラシで知り、薬を水以外で飲むとどうなるのか疑問に思ったので参加しました。コップに入れたオレンジジュースに薬を入れて混ぜたら、泡がブクブクと発生してびっくりしました。水以外で飲むのはよくないことがよく分かりました。このことは家族にも伝え、気を付けるよう言いました。

このお仕事体験に参加するまで、将来の夢はロボットを作る人か理科の先生になりたいと思っていましたが、今回で薬剤師にもなりたかったので将来の夢が1つ増えました。なりたいたいが増えるというのは、選択肢が増えるということなので、今後もこのような機会があれば参加し、将来の仕事を探っていきたいです。

ゆう薬局グループ
取締役



薬剤師
船戸 一晴さん

薬剤師の仕事の本質は、患者ごとに合った薬であるかのチェックや的確な判断、指導をすることです。

薬の間違った使い方や薬に対する理解不足でつらい経験をしている人、きちんと薬が効かず治療がうまくいっていないケースでは、早期の相談が必要となります。薬の正しい理解を広め、必要な時に相談してもらえる環境を作れたら、皆さんの生活や健康、医療に関する安心感・安全性の向上に貢献できるのではないかと思います。

今回のイベントが、これから成長し、進学や就職などで舞鶴を離れる子ども達が、自分の体を自ら管理しなければいけない時に、薬を正しく安全に服用するセルフメディケーションにつながればと思います。